

編集後記

日本のインターネット普及率は、平成13年3月の発表によれば、37.1%で世界第14位である。スウェーデンの56.4%、米国の55.8%、香港の48.7%等と比べはるか後進である。そこで今後5年以内に世界最先端のIT国家となることを目指す「e-Japan重点計画」が政府から打ち出された。一朝一夕に遅れを取り戻せるものでもないが、各種プロジェクトがスタートし、IT化が加速された。ここでは、2005年までに、3000万世帯が高速インターネットアクセス網に、1000万世帯が超高速インターネットアクセス網に接続される普及を目指している。

インターネットの高速化が進めば、これを利用したTVのストリーミング放送や、双方向放送、また映画や各種映像のダウンロード視聴が進む。ここで映画2時間分(MPEG-2)をダウンロードしようとする、伝送速度1.5Mbpsでは5時間、100Mbps(FTTH)では5分かかる。一方先端的研究開発テーマになっているフォトニックネットワーク構想では、WDM(波長分割多重)方式等利用してTV2日分を0.1秒で伝送する高速化が進む。

これらの技術開発を達成するには、インフラ技術や端末機開発など周辺技術の開発もこと欠かせない。そこで当社も「開拓と創造」の理念のもと、研究開発にたゆまぬ探求を続けて来たところであります。

今回の技報は、そのような研究開発の一端をご紹介します、微力ながら読者の皆様とともに「夢と未来を技術で拓きたい」との思いを込め編集しました。

編集メンバー

赤澤	優	石井	清
市山	豊	岡本	修
喜田	孝司	桜井	幾久雄
竹田	直身	建部	祐
野島	良明	野瀬	泰宏
宮崎	勝		

(五十音順)